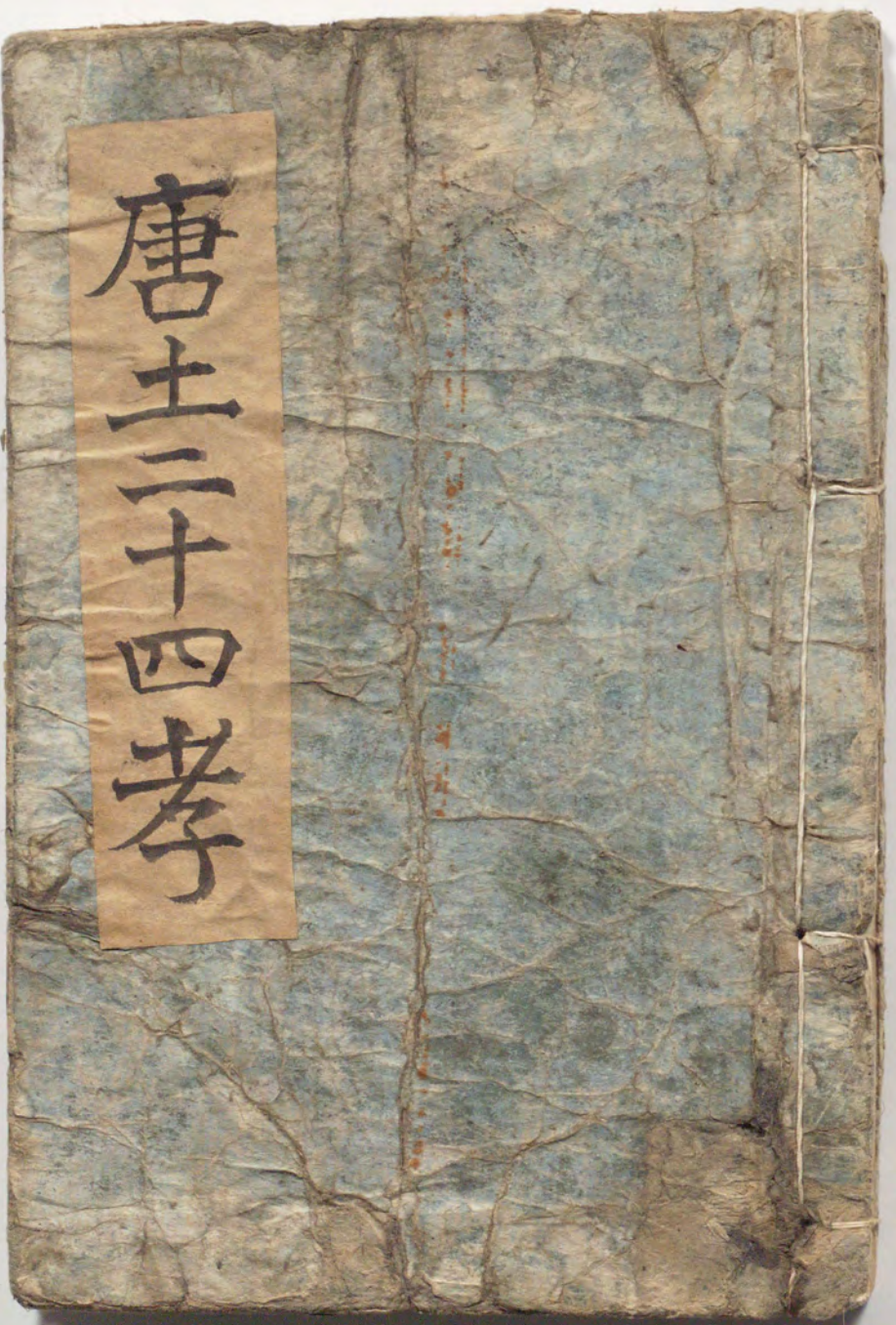
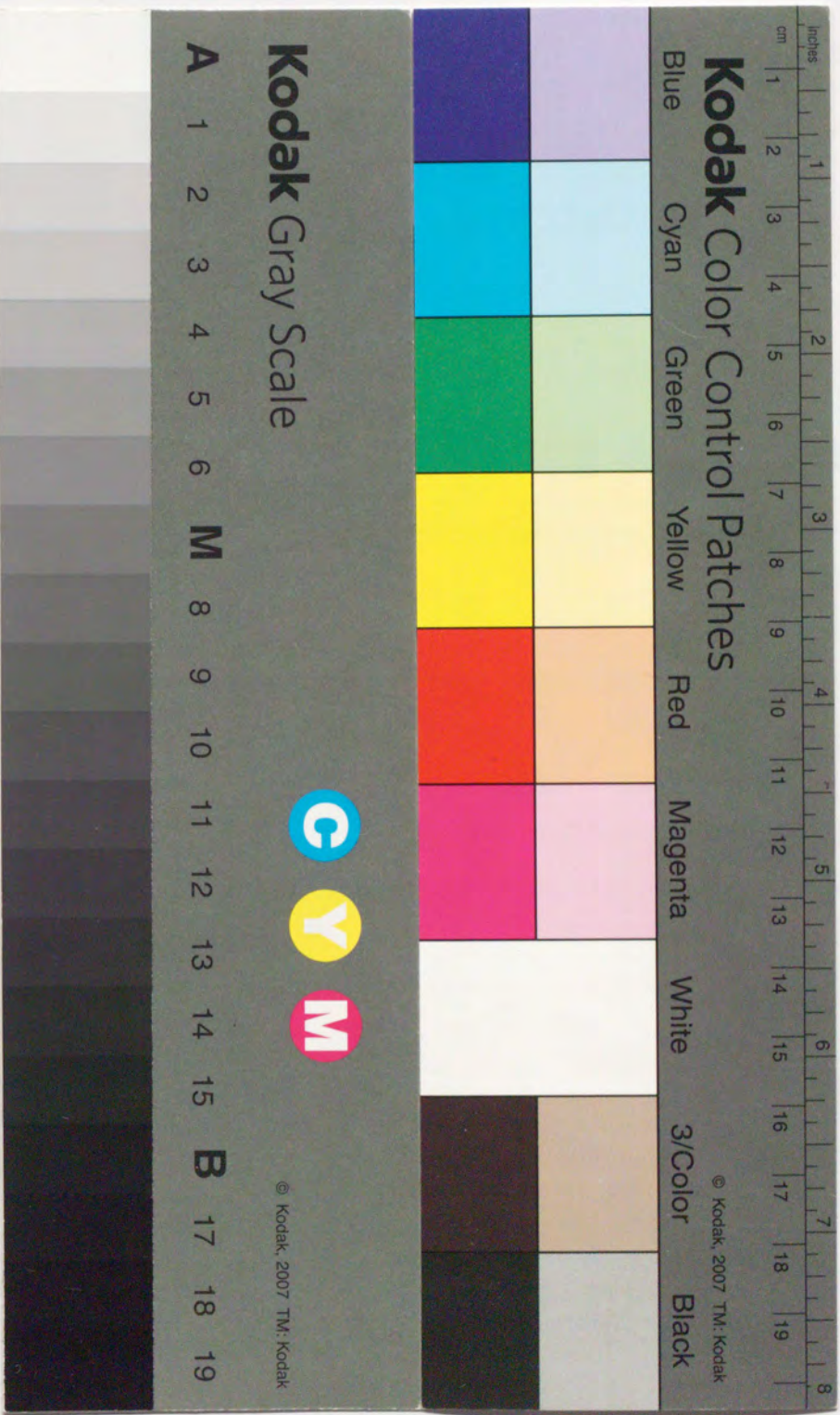




山田野亭編
浦川一舩圖

唐土二十四孝

浪華

文金堂粹



二十四孝

孝の基は百行の基とて人子ありて行ひは源なり
これを聖人の孝教と學問の才ありて五刑乃
属す千罪不孝と程大かたし誠めりて唐土
孝りある人多しといふもゆゑもたふして孝に陳き
人を二十四人といふ是亦詩を加へ帝を
吾國中傳て是を二十四孝と稱し
倭國に解和し普く女孝の教のすべから
毎まゝに傳へるを見よ
其の孝の徳をわたりて唐土の孝あり

大舜

隊々耕春象

孝感動天心



大舜ハ又頑ハ

一々母ハ又頑ハ

弟ハ又頑ハ

三人ハ合セ舜ヲ殺さんと

恨ムト又母ハ孝行ハ又頑ハ

歷山ト云所ヨリ耕作ハ又頑ハ

其徳天下ハ又頑ハ

位ハ又頑ハ

大舜賤ハ又頑ハ



口説の文帝

仁孝臨天下 魏々冠百王
漢廷載賢母 湯藥必親嘗

漢文帝ハ高祖の御子ニ母孝ハ孝行ト

上る食物ト

勸める中

文帝も

嘗て

後ハ

勸め



高祖

の

御子

あま

おのりませ

此君ハ仁孝ハ孝行ハ

孝行ハ陳平

周勃などの大臣此君と王佐ハ

即ち孝行の道ハ上人

より下ガ民ハ孝行ハ孝行ハ

孝行ハ孝行ハ孝行ハ



孟宗

涙滴朔風寒 蕭々竹數竿
須臾春笋出 天意報平安

孟宗字季恭 山陰之南

中 孟母年老 孝子

食の味も度々

物々好めを冬

笋と喰ふ思

孟宗竹林

として笋を煮

竹ふよりを

大いふふ

々々小俄小大地

ひひけさねけの

生出来たり孟宗大

とつてふりあつ

ををめ々々母これ

愈よひをの

心をくんと

天道よりあ



口下蔵

丁蘭ハ河内の人

方り十五の

と母別れ

長たると

母の貌と

木像ハ

刻と生る

人ふ事と如

とてかゝる

あつた丁蘭

が妻過つ

木像の面と

火中焦ると

其痕瘡のと

うとふれ二日と

妻の髪刀と

てぬけ落たり

おとる木像と

三年お及び

二日

刻木爲父母
形容在日新

肉はく妻のうと

寄言諸子姪

聞早孝其親

是より夫婦いよくせられ深き情

孝行と



國子養

三子免風霜
 晚娘尊前留母在
 何曾忍

函子養ひてけりて
母とてをへり。又まゝ

後妻とむく二人の

子と生る後妻

継子きりこの関子かんしを

惡冬苦

穂

衣い服ふく
ふ

入々著せ

多。

是之

三

大和怒

子
と
上

びんしん
と東
り

西子著意之新め

今更に土の界 三人の

子寒くより升入身の

さむねをうへたふ二人



是よりて又妻を去るの止むなり
妻も肉子養育が心すむを其後ハ
実の子と同一をみくも々々とな

曾參

母指總方喘
 兒心痛不寐
 負薪歸未曉
 骨肉至情深



曾參孔子の

門人母を侍る

孝行深し或時山中へ

薪として行々母を侍る

居るを侍る親を侍る人ありけれ

母是より侍る一うねりも曾參ハ

家小あはれもより家貧しをれりあつと

我子早く入るうと指どかきれハ曾參

山中あつて能く心せだ一々あつて家小

うりたる母指ひ有一あつと客人をもて

あ一たり指どくで遠たふさるハ孝心ふた

ゆゑあふ



王祥

繼母人

間有

王祥天下無

至今河水

一片冰

王祥幼女也母を

う愛王又又後妻と

めをぬ此後妻は継子なり

王祥を惡くしつゝは

りとおもふ王祥は母を恨じ

いふ孝行をうけりあるは母病ふ

卧す鯉のあつめを喰へるを欲せり折は

冬の事あり河水凍く氷て鯉を求む

使かり王祥衣とめぬあるはふたり氷の上臥

うあり氷を氷かき解く二尾の鯉はり出さる

王祥より鯉をとるて王祥あつめを母に与めたり

これより孝行のありて天よりあまのさる

其河ハ毎冬氷あり氷のさるる人ハ

うちわられん人王祥は至孝也感トタス



老萊子

戲舞學

嬌癡

春風舞

彩衣

雙親

笑

色

滿

圖



老萊子ハ兩親ハ

つゝ孝行ス

其身七十才及ハ

五色の衣を着テ小兒の

如く舞々ズ親ヲ敬ス

又ハ給仕ヲカスミタ

仕ス小兒のごく様々

其身年老テウツク

兩親のうれひ多ク人々を驚カセ

ハ老萊子ハ孝行をサカサメ

口詩 詩

合則其泉出一朝双鯉魚
子能知事母婦更孝於姑

姜詩母小孝行
母乃江の水を飲
又鮮魚の膳を
斯の夫婦とも孝と
つゝえむ天道感
ふひてや俄小泉の側
江のく清水を
其中小鯉ありて水と
汲桶の中へ



入々うれと
して心のま
あふ々々



口唐夫人

孝敬崔家婦乳母展盤孫
此恩無二以報願得子孫如

唐夫人崔家の妻と姑長孫夫人と一ひ齒ぬけくもつ
食と味もつ能く唐夫人はひ乳をあげて是を中食といふ
外身とるる孝養と云ふこと數年及なり其後長孫夫人病ふ
時今も死をぐかりぬれば
親屬門を叩あめりぬき
中唐の夫人が數年の恩
惜られ死をも忘るるを
我子孫嫁の孝行おぼし
くあるを末もへんを



慎むと教訓
一家門孝貞と云ふ
孝子孫も富

人のふ人の嫁

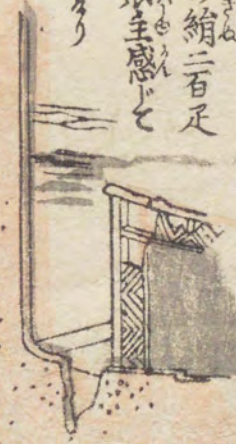
とらんもの
これと鑑と
あ



董永

董永又貧乏兄天姬酒上迎
織絹償債主孝感盡知名

董永ハ幼少母死れ及事て孝と云ふ事多し又死に奉る小松賊
かり董永身と千貫賣り葬れといふ事多し諸其後賊主乃
りて行々小道より一人の美女逢其入董永が妻とありふと云ふ
伴ひ行々一月ふと云ふの絹三百疋
織て主の方へ送りてを財主感と
董永と云ふ家ありありあり
其妻美人董永曰我妻
天上のかり姫あるが
天帝は至孝と



感我と下て

夢みめを

償いもを

以て天へ

具々



口黄香



黄香九冬のとき
母ふかれ又ふとつて
孝と尽せり冬は身成り
会家とあてめて父を臥し夏
席とわづら涼しく父を臥しめり
布ふ孝行をつつて親を
大寺劉寛といひ人高礼を
譽言々なりふ時の人黄香と孝行を
人といふ



冬月温衾煖夏天扇枕
兒童知子職千古一黄香



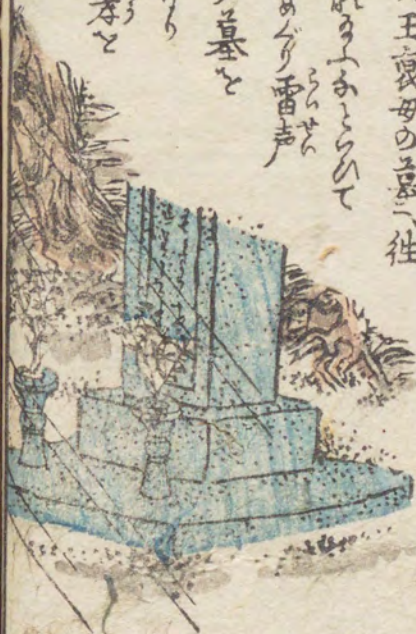
王哀

慈母怕聞雷 氷魂宿夜臺
阿香時一震 到基亮子迴

王哀ハ王義ト一人の子ニ又死シ其墓の木ニツケテ泣ク其母ハ雷と怖ル人々母ハ其子ノ死ニ後日

雷電のとき日ハ王哀母の墓ニ往
王哀母ハ其子ノ死ニ後日

墓ニツケテ泣ク其母ハ雷と怖ル人々母ハ其子ノ死ニ後日



孝行の人



口郭巨

貧乏之思供給埋兒願

母存黃金天

所賜光彩照寒門



郭巨

河内の人々家々

母と養へて妻二人を主

生く三才のれを老母

孫と愛と食物と分ちて

あつた郭巨妻とて曰

家貧やく母の食をえられ孫のちをえ

食いよく子再び生る母再び得

此子を埋て母の養と快くせん夫婦泣き子を埋んと市中

掘り出し黄金の金と掘出せり銘曰天賜孝子郭巨不得

奪民不得取と是より郭巨俄に家富いよく孝を尽る

七歳生離
 母参高
 五十年
 一朝相
 見面喜
 氣動皇
 天



朱壽昌ハセオノ

とん又その母と去

これバ壽昌母と去

此の憂ハ歎け

逢さるの五十年ハ及

壽昌母と去る念

遂ハ官禄を捨妻

奉とつ所へこの行

天道と祈る母ハ逢

血とつ経を書て祈

遂ハ母ハ廻り會家

其誠心通

孝行を

なり

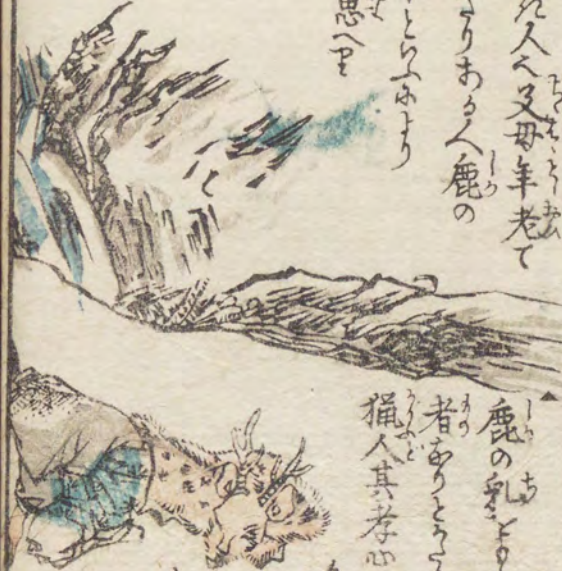
なり

なり

刻子

老親思鹿乳
身掛傳毛衣
居不高聲語
山中帶箭飯

刻子ハ親ハ孝行せん人々又母年老て
とも雨服とてふりある人鹿の
乳とてけを治とてとりふり
雨親是と得んとて思へ
す一雨親の望と
うめんのと鹿の皮と
着て山へ行あまの
鹿の中へ其乳と
もとのんと



鹿の乳とてむる
者ありとてふり
痛人其孝心を
んと
鹿の
乳と
あふり

痛人これとて
鍼の鹿とて

針人き
うん刻子

声と
うん

あふ
あふ

あふ
あふ

あふ
あふ



痛人此病を
又かみあふり
眼病治
あふり

蔡順

黒搥奉親

園啼飢

泪滿衣

赤眉知孝

順牛米

贈君婦

蔡順ハ汝南の

人王莽が乱ふ

よりて天下饑饉一



蔡順母のくま来り

實といふは熟しき

熟せしきとてさけり筆入る

時赤眉の賊とて無道の

通りうを是とて何ゆゑ二色

ひろひしとてと聞きゆんをて熟せハ

母ありて熟せしきハ我食せんをちりといひ

され無道の賊もその孝心をうん

早二斗と牛の足一ツを分めて去り蔡順

二品を持より母ありてとて食しき

一期のるるをて是天子孝子なりとて食する



口大驚妻

至懸味旬時 椿庭逢 願持身代死 北望 望 望 望

庾黔婁孝行 孝行ふれ人なり。廿分やうといふ処官の
事ふ付て行ふふ十日むうふて俄に心き死
るれは是又の病ふふふとわの官と捨て古里へ
うりたるふ案のて又大病く黔婁むるれ
又の義とあめて死生をころころふむつり
ようふれを大お愛ひ北斗星と祭
我命とふふ又の死ふふふふ
ふと願ふれを其孝心天ふ
通ふと死ふれ又の病も



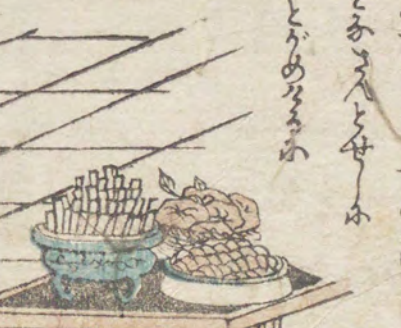
治孝行の
徳



陸積

孝悌皆天性
人中六歲兒
袖中懷綠橘
送母報含飴

陰積^{しんせき}字ハ公記^{こうき}吳のふり人なり六才めと表術^{ひょうじゆつ}とり人の
もく往^{やう}ふりふ。ふりふたぢをいせと出せ^でて。てくれれと
三ッろりて袖^{そで}かへり。うりてふれとあえとせふ
橘袖^{たちばなそで}より落^{おち}たり。あへぬ是とてんくとがめなるふ
てくれむにびれは。あまうんてとある
なちにあゆみ家^{いけ}ふり母^{はは}進せん
ふれふれといと答^{こた}へ。あんなあつきと
大ふかん。せとあれ人ふ
まれあふ孝行^{かうぎやう}人と

A traditional Japanese illustration showing a low wooden table (kyozukue) with three bowls of food. On the left is a blue ceramic bowl filled with white rice sticks (chawanmushi). In the center is a white bowl containing a pile of small, round, golden-brown items, possibly tempura or fried dumplings. To the right is another white bowl with a similar pile of food. The background shows a simple room with a tatami floor and a sliding door (shoji) partially visible on the left. A person's leg and part of their garment are visible on the far left edge of the frame.

万の事なりとて
 これより 天下の人
 多くせむ
 孝行をま
 なるなり



張孝張礼

偶值緑

林兒

代熏

云瘦

肥人

皆

有

兄弟

張氏古



兄弟是をうけとて
いふ母孝行と
は

張孝張礼

兄弟之饑饉の

年八十余の母と

中あて一日景を

ひろひ行ろふ一人の饑人

あり張礼をえり殺して食んと云

張礼曰我母あり人食と進せて後再びありて

殺されんとてまた母の食とて約束の

往くを殺しんとて兄の張孝も後より往弟を助け

我と殺しんとて兄弟たうひ死とあふふとて無道の

餓人も其義心と感し兩人とも助け米二石と塩一駄をいふ



田真 田廣 田慶

海底紫珊瑚 群芳總不凋
春風花滿樹 兄弟復同居

此三人兄弟父母同而後親の家財を兄弟三人分ちて
各々庭前小紫荊樹とて枝葉さく花も咲ぬを
是をも三つ分ちんとて三人もまた分ちんと
一々分ちて夜あけに兄弟を昨日まで栄へ
たる木忽ち枯る田真是を曰
草木情ありといへも斬かんとを
一木を枝のてり別れ
住ハ不孝人只此処ハ



同居を
木を断と

彼木又
青々と

栄
なり

口 吳 猛

夏夜無帷帳 蚊多不敢抖
恣渠膏血飽 免使入新園

吳猛ハハチノト又ハ孝アリ人ナリ家貧トシトモツル心ナリ
夏ノ夜ナレトモ蚊帳ナシ。吳猛又ノ身ト蚊ノ多ク人ヲモレ
又寝テ後ハトク小ビカ衣服ヲモレ又ハカハ猶團扇ヲ
モレ又ノ身トモレ蚊ヲモレ人ヲモレ推キ身ヲ
ク孝行フルナリ又ハ奇童トシ
天下ノ人其ヲ感ゼルハナリ其ノ世ナリ
ウツツ人ノマツル者ノ

鑑トナリ





貴顯
聞天下
平生孝
親親
汲泉涌

山谷

溺器

婢妾豈無人

山谷六甲の世乃

詩人よりあまの

婢妾もまた妻ありあれども

ふつと母の大小便の音をきくとあつとて

活きとるに半つとて是をわひ朝夕能つて

其外の孝行やもろもろを詩文の達人ありあつても

富貴なり人のふくろ親の孝行をたへ世にありては

人なりとて天下のふくろ是をたへて人なりとて天下のふくろ

富貴ある人も孝行をたへて人なり

著述

圖畫

浦川一舸

字典節用全一冊

算學總古大全一冊

奇子式目全一冊

庭刻往來大字一冊

高貴往來即家流大字

孝經餘師全一冊

石組八重垣傳乃書也

浪心書肆

河内屋太助

